

■豪州：ウエスチングハウス社 CEO、原子力導入の可能性を示唆

2015年10月8日付の地元経済紙によると、オーストラリア訪問中の米国ウエスチングハウス社（WH）のロデリック CEO は、オーストラリアにある老朽化した石炭火力発電所の廃止が、原子力発電所の建設の機会になり、原子力発電に対して態度を保留している8%の国民を説得することができれば、全国民の過半数が発電所の建設に対して賛成するであろうと語った。ロデリック CEO は、環境相と資源相と相次いで会談、今後のアジア等での原子力発電所の新設に向け、同国の大手エンジニアリング・建設会社 UGL、Saab、Teralba と提携する計画も明らかにした。これら3社はWHとの協働により原子力発電所を保守管理するための人材を育成するとしている。同社の原子炉 AP1000 は現在、米国、中国で建設中、英国、インドでの建設が計画されている。